

2020年度の学校教育活動に対する学校評価書

就学支援金拡充に伴う公私立間を超えた激しい競争が予測される中、中期計画をもとに、基本的教育の土台の上に特色ある教育による生徒の育成を図る。

【めざす学校像】

隣人愛のもとグローバル教育の充実している文武両道の進学校

【育てたい生徒像】

- 隣人愛の精神を持つ生徒
- 自立、自律で多様性を受け入れる生徒
- 基礎学力、探究力、協調力、自己発信力、忍耐力・受容力を持つ生徒

【目指す教職員像】

聖隷クリストファー中・高等学校の教職員は、「隣人愛」の精神を持ち、生徒一人一人の成長を第一とし、次のような教職員を目指します。

- ① 生徒理解に努め、教育的愛情を注ぐ教職員、教育のプロとして専門的知識を持ち、実践力を発揮する教職員
- ② 協力・協働して職務を遂行する教職員
- ③ 学校運営全体の視点を持ち、積極的に学校運営に参画する教職員
- ④ 社会人としてだけでなく、教員としての社会的使命を自覚し、責任ある言動の取れる教職員
- ⑤ 「生徒と接する際のガイドライン」を遵守する教職員

【2020年度の取り組み】 ※評価点は、A（十分に効果があった）・B（成果があった）・C（少し成果があった）・D（成果がなかった）

	取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
習慣の確立 (1) 基本的生活	隣人愛をもととした基本的生活習慣の確立	①挨拶の励行 ②時間を守る ③約束を守る ④忍耐力、受容力を養う	各教員、各学年、部活動顧問、生徒支援委員会	B	登校指導や授業時に行っている。中高生徒会、強化部活動・準強化部活動の協力を得て挨拶運動を広げた。	A	来校者に対する生徒の挨拶は丁寧で好印象を受ける。

	取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
(2) 学力向上	1) 基礎学力定着	①自主学習取り組み等の授業改善	教務部、研修・探究委員会	B	<p>中学や高校英数科では多少の個人差はあるものの総じて家庭学習の習慣化や主体的な学習への取り組みができています。</p> <p>高校普通科（特に進学クラス）では家庭学習習慣の定着が1つの課題となっている。</p> <p>また、中学校での積み残しがあり、学習意欲や理解が深まらないとの指摘もあり、限られた時間内で中学と高校の履修内容の両者を定着させることが難しいとの課題がある。</p> <p>しかし、教員側から宿題や課題を課すケースが着実に増えてきていると同時に基礎学力を付けさせるための工夫した取り組みも広く為されつつある。</p>	B	<p>学習意欲の喚起と家庭学習習慣の定着化は難しい課題であるが、より一層の積極的な取り組みに期待したい。</p>
		②教科ごとの課題改善	各教科	A	<p>今年度は新型コロナウイルス感染拡大対応として、家庭学習時に行う課題作成と配信、インターネット活用による授業動画の作成と配信、web上のSHR実施等積極的に行った。</p>	A	<p>新型コロナ感染拡大化の中で大変だったと思う。多くの教員が授業動画を作成・配信し、オンラインによるSHR等の実施は評価できる。</p>

取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
			評価	反省と改善策	評価	意見
2)新しい学力	①探究力、自己発信力等の修得	教務部、研修・探究委員会	B	中学では教科を超えた総合的な探究活動「キャリア学習」を導入し、論理的思考力、判断力、受信発信能力など多岐に渡る力を身につけるプログラムを実施している。高校では一部の教科で思考・表現・判断する力に結び付く活動を取り組ませているようであるが、まだ研修・研究段階である。	B	思考・表現・判断する力に結び付く活動を取り組ませる教科が少しでも増えるよう研修・研究を続けていって欲しい。
3)新教育課程等の策定	①新学習指導要領改訂の対応	教務部	B	学習指導要領の変更に伴い教務内でワーキンググループを設定し、課題研究を推進している。必要に応じ適宜全職員に報告をしたり、研修会を開いたりしている。一方、教科会を通して評価方法の研究や工夫を進めている。評価の問題はそのまま教授方法の改善や工夫に繋がっており、教科内での理解が少しずつ深まってきている。教育課程については現在、教科主任と検討中であるが、総単位数などの大枠が決まったところで具体的な話し合いに入る予定である。	B	新学習指導要領への準備が着実に進められている。
	②2021年度からの教育改革	教務部, 進路指導部	B	新学習指導要領に向けて既に評価方法や授業改善が推進されている。現在、研修・探究委員会及び教科主任と共にその研修を進めている。学力の3要素の評価を調査書へ反映する手法について、書籍等で研究をしている。教務との連携が急務である。	B	

	取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
	4) 学力向上による大学進学向上	① 海外大学を含む大学進学目標設定	進路指導部	B	学校推薦型選抜と総合型選抜を有効的に活用して個別最適化した進路指導を行っている。	B	
(3) 教員の資質の向上	1) 分かる授業	① 教員の公開授業と授業参観	研修・探究委員会	B	全職員による授業研究日を設定し、実施した(6月・10月)	B	いずれも教員の資質向上に欠かせないものであり、継続的な取組みを期待したい。
	2) 教員の危機管理意識の向上	① 前始末、後始末の事例研修の実施	研修・探究委員会	A	保護者対応に関する管理研修(講師:小野田正利大阪大学名誉教授)を10/6に実施した。	A	
	3) 教員による教員評価の有効活用	① 面談、フィードバックの効果的な実施	管理者、各教員	B	1月の教員面接時に、校長より丁寧なフィードバックがなされ教員の理解が深まった。	B	
(4) グローバル教育	1) 海外提携校の検討	① 小学校が提携校の一つと考えているエマニュエルカレッジ(オーストラリア)を検討	グローバル教育委員会	D	コロナ感染拡大のため保留としている。	D	外部環境の変化もあるが、継続して対応していただきたい。
	2) 英語4技能と外部試験	① 学力グループ別に英検、GTECで成果を挙げる	英語科	B	個別に英検受験を奨励した。高3英数科で1-Day:SCBT(スピーキングを入れたコンピュータでのテスト)をはじめとして受験し、準1級合格も数名出始めている。外部試験必須であった昨年度と状況が変わったこともあり、GTEC団体受検については中止とした。	B	

	取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
	3) グローバルスクール小学校の外国人教員の協力による中・高英語教育の充実	①グローバル小学校のスタート時期を避け、小学校所属の教員による中・高生徒への英語指導を実施する	グローバル教育委員会、英語科	B	マリセル先生による小学校児童と高校生徒の共同授業を実施した。	B	
(5) 生徒の安全	1) 交通事故(自転車) 予防	①危険マップ作成・告知	生徒指導部	A	危険マップを作成し、事故地点・危険地点を記入の上公開している。通信等で紹介をしているが、認知度は低く今後の活用方法については検討が必要である。	A	危険マップを作成し避難訓練も実施している。一層の周知と定着化を図って欲しい。
	1) 小学校との協力による防災・減災	①小学校独自、小中高合同訓練、対応の実施	渉外部	A	9/1(火)13:10より、巨大地震発生を想定した各校舎からグラウンドまでの避難経路確認と全体避難を実施した。	A	
(6) 生徒募集	1) 中学校生徒募集の強化	①中学教育(中高一貫)の特色のアピール	中学	B	今年度より、ピアサポート研修(年10回)、キャリア学習(週1コマの授業)を実施した。学年を横断した縦のつながりを大切にするために、朝の中学校集会などで縦割り活動を多く取り入れた。	B	本校における教育資源を活用し丁寧に行っていることが伺えた。
	2) 高校生徒募集の強化	①就学支援金制度の拡充のさらなる周知	入試広報	B	資料の作成・配布。HP・SNSを利用した周知徹底を試みた。授業料自動判定システムを作成し、授業料の目安を算出できるようにした。	A	
	3) 中高生徒募集の強化	①SNSの活用、進路保証、スクールバス路線追加等のアピールを強化	入試広報、総務部	B	SNSを利用して本校の魅力を発信した。また、イベントで資料の配布と紹介を行った。	A	

	取組目標	達成方法	担当部署	自己評価		学校関係者評価	
				評価	反省と改善策	評価	意見
	3) 中高生徒募集の強化	① 聖隷グループへの協力依頼(パンフレット配布等)	入試広報部	A	聖隷各病院、予防検診センター、浜名湖エデンの園にパンフレットのラックを設置した(聖隷浜松病院は新型コロナウイルスの影響で保留としている)。	A	
(7) 教員の働き方改革	1) 教員の働き方改革の具体化	① 法改正の遵守	管理者	C	管理者による教員の労務管理は行っているが、出勤簿等の記入が煩雑となり、教員の業務の軽減にはなっていない。次年度は出勤簿等の改定やシステムの導入によって教員の業務の軽減をしたい。	B	教員の過重労働を防ごうとする管理者の配慮は評価できる。生徒の望む進路実現と教員のワークライフバランスの実現の両立は容易ではないが、引き続き努力していただきたい。
	2) 新部活動ガイドライン策定	① 部活動の業務委託契約	管理者	A	実施済。	A	
		② 活動の少ない同好会等の統廃合	管理者	C	美術部、囲碁部の募集を停止した。今後も働き方改革と生徒募集の両方をにらみながら整理を進める必要がある。	C	
		③ 休日の設定	部活顧問	D	新規の検討は未着手。	D	
3) 放課後、生徒からの教科の質問に答えられる教員の配置	① 従来同様職員室前廊下での教科の質問に答えられるよう、部活動指導と重ならないように配置する	管理者	C	放課後残っている教員に質問する生徒がいる。それに対して教員の生徒への教科指導、進路指導を行っているが、部活動指導と重ならないように工夫している。	C		